



Cisco Prime Collaboration Deployment 管理インターフェイス要素

- 共通の管理インターフェイス要素 (1 ページ)
- モニタリング ビュー要素 (2 ページ)
- タスク ビュー要素 (7 ページ)
- インベントリ ビュー要素 (33 ページ)
- 管理ビュー要素 (46 ページ)

共通の管理インターフェイス要素

次の要素は、Cisco Prime Collaboration Deployment の管理インターフェイスのすべてのビューで共通です。

設定	説明
ナビゲーションの開閉ボタン	垂直ペインに表示されるメニューに移動するためのアクセスを提供します。このボタン ビューをクリックすると、メニューが非表示になります。 (注) アプリケーションに初めてサインインすると、このボタンを示す透明な灰色の画面が表示されます。この画面では、表示をオフにするためのポップアップメッセージも表示されます。
検索とインデックス化	アプリケーションでの検索を可能にする検索テキスト ボックスを表示します。また、オプション Cisco Prime Collaboration Deployment がインデックスとして表示されます。 (注) 検索オプションを表示するには、ナビゲーションの開閉ボタンをクリックします。
バージョン情報	Cisco Prime Collaboration Deployment のバージョンを提供します。この設定には、著作権と商標情報も含まれます。

設定	説明
ログアウト	サーバを終了します。
ヘルプ	コンテキスト依存のヘルプ情報を提供します。
情報 ([i] ボタン)	現在表示しているページに関する情報を提供します。
開始 (フラグ ボタン)	サーバでシステム レベルのタスク実行を開始するための情報を提供します。

モニタリング ビュー要素

タスクのスケジュール設定後は、[モニタリング (Monitoring)] ページを使用してタスクをモニタおよびコントロールできます。

設定	説明
タスク キュー	<p>Cisco Prime Collaboration Deployment 内に含まれるすべてのタスクのリスト。このリストには次のタスクを含めることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • スケジュール済み (Scheduled) • Cancelled (キャンセル) • Started (開始) • Paused (一時停止) • Paused due to Error (エラーにより一時停止) • Successful (成功) • Failed (不合格) • Upgrade Tasks (アップグレード作業) • Switch Version Tasks (バージョン切り替えタスク) • Server Restart Tasks (サーバの再起動タスク) • Readdress Tasks (タスクの再アドレス付け) • Install Tasks (タスクのインストール) • タスクの移行 (Migrate Tasks) <p>[タスク キュー (Task Queue)] 内のタスクのいずれかをクリックすると、右上のパネルにそのタスクの詳細が表示されます。</p>

設定	説明
タスク ステータス	

設定	説明
	<p>[モニタリング (Monitoring)] ページの右上部分に、特定のタスクに関する次の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ステータス (Status) • 開始時刻 • タスク データ (例: クラスタ データ) <p>タスクの詳細を表示するには、[View Log (ログの表示)] リンクをクリックします。</p> <p>以下は、考えられるタスクのステータスを示しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [成功 (Successful)] : タスクがエラーなしで終了したことを示します • [開始済み (Started)] : タスクが現在実行中であることを示します • [スケジュール済み (Scheduled)] : タスクがスケジュールされているが、まだ開始されていないことを示します。 • [手動開始 (Manual Start)] : タスクは開始を待機しています (ユーザはこのタスクの作成時に [タスクを手動で開始 (Start Task Manually)] オプションを使用しました)。 • [キャンセル (Canceled)] : ユーザがタスクを実行しないことを選択したことを示します。 • [一時停止 (Paused)] : タスクが一時停止状態でフィードバック待機中であることを示します • [エラーにより一時停止 (Paused due To Error)] : タスクがシステム内のエラーにより一時停止状態になっていることを示しています。 • [失敗 (Failed)] : エラーが原因でタスクが停止したことを示します。 • [スケジュール失敗 (Failed to Schedule)] : 発生したエラーが原因でタスクがスケジュールされなかったことを示しています。 • [キャンセルできませんでした (Failed to Cancel)] : ユーザがタスクのキャンセルに失敗したことを示します。これは通常、タスクが最終状態にある場合に発生します (キャンセルできる残りのアクションはありません)。 • [キャンセル中 (Cancelling)] : ユーザがタスクをキャンセルしたが、タスクはキャンセルに長時間かかる状態にあること

設定	説明
	<p>を示しています。キャンセルされるタスクがインストールタスクまたは移行タスクである場合（新規サーバインストールフェーズ）、タスクは1時間以上この状態であることがあります。</p> <p>[成功ステータス (Successful Status)] 状態で考えられるメッセージとアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • タスクは正常に完了しました (Task completed successfully) • [削除 (Delete)] : タスク データを永続的に削除します。 <p>[開始 (Started)] 状態の考えられる操作は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [キャンセル (Cancel)] : 選択したタスクをキャンセルします。 • [削除 (Delete)] : 選択したタスクを永続的に削除します。 <p>[スケジュール済み (Scheduled)] 状態の考えられる操作は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [キャンセル (Cancel)] : 選択したタスクをキャンセルします。 • [削除 (Delete)] : 選択したタスクを永続的に削除します。 <p>[手動開始を待機中 (Waiting for Manual Start)] 状態で有効なアクションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [開始 (Start)] : タスクを開始します (このボタンは、タスクの作成時に手動開始 (Manual Start) オプションが選択された場合にだけ表示されます。) • [削除 (Delete)] : 選択したタスクを永続的に削除します。 <p>[一時停止 (Paused)] 状態で有効な操作は以下のとおりです (ユーザがこの手順で一時停止するようタスクを設定している場合に、タスクはこの状態になります)。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [再開 (Resume)] : タスクは次の手順に進みます • [キャンセル (Cancel)] : 選択したタスクをキャンセルします。 • [削除 (Delete)] : 選択したタスクを永続的に削除します。 <p>[エラーによる一時停止 (Paused Due To Errors)] 状態で考えられる操作は以下のとおりです (システムがこのステップでエラーを検出したためにタスクはこの状態に入ります)。</p>

設定	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • [再開 (Resume)] : タスクは次のステップに進みます (再開するには、事前にログのエラーを確認する必要があり、エラーの原因となった問題を修正するために、他にタスクは失敗します)。「[検証が原因で失敗しました (Failed due to validation)]」というエラーメッセージが表示される場合、[再開 (Resume)]をクリックすると、タスクは再検証を行い、最初の手順から開始します。それ以外の場合、タスクは次の手順から開始します。 • [キャンセル (Cancel)] : 選択したタスクをキャンセルします。 • [削除 (Delete)] : 選択したタスクを永続的に削除します。 <p>[失敗したステータス (Failed Status)] 状態で有効なアクションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [削除 (Delete)] : 選択したタスクを永続的に削除します。
[タスク開始 (Start Task)] ボタン	スケジュールされたタスクに対して実行されるタスクを開始します。
[Edit (編集)] ボタン	スケジュールされたタスクに対して [Edit (編集)] ダイアログを開きます。
[Pause (一時停止)] ボタン	実行中のタスクを (次のステップで) 停止します。
[Resume (再開)] ボタン	一時停止されたまたはエラーのために一時停止されたタスクを次のステップで再開します。
[Cancel (キャンセル)] ボタン	スケジュールされた、実行中、一時停止、またはエラーのために一時停止されたタスクをキャンセルします。
[Delete (削除)] ボタン	スケジュールされた、キャンセルされた、成功した、または失敗したタスクを削除します。
タスクの概要	<p>[タスクの概要 (Task Summary)] セクションには特定のタスクに関する次の情報が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 送信元クラスタ • 宛先クラスタ • Unified Communications Manager アップグレードファイル • Unified Presence アップグレードファイル

タスク ビュー要素

アップグレード ビュー

設定	説明
スケジュールされたタスクおよび履歴テーブル	
ステータス	<p>アップグレード タスクに関する情報を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Successful (成功)] : タスクがエラーなしで終了したことを示します • [Running (実行中)] : タスクが現在実行中であることを示します • [Scheduled (スケジュール)] : タスクがまだ開始されていないことを示します • [Canceled (取り消し)] : ユーザがタスクを実行しないことを選択したことを示します • [Paused (一時停止)] : タスクが一時停止状態でフィードバック待機中であることを示します • [Paused due To Error (エラーにより一時停止)] : タスクがシステム内のエラーにより一時停止状態になっていることを示しています • [Failed (失敗)] : エラーによりタスクが停止したことを示しています
開始時刻	アップグレード タスクの開始時刻を指定します。
最後のステータス レポート時刻	アクションが完了した時刻を指定します。完了したアクションは成功または失敗のいずれかの状態です。
クラスタ	アップグレードされたクラスタの名前を指定します
注意	[Add Upgrade Task (アップグレード タスクの追加)] ウィザードの [Review (レビュー)] の部分に注意書きを追加

■ アップグレードビュー

設定	説明
アクション	

設定	説明
	<p>特定のアップグレードタスクに対して以下を実行することを可能にします。</p> <p>(注) タスクの状態によっては、これらの操作の一部だけが許可されていることがあります (たとえば、完了したアップグレードタスクをキャンセルすることはできません)。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [スケジュール済み (Scheduled)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> • [Run Validation Test (検証テストの実行)] : すべてのノードが利用可能で、使用する iso が存在することを確認するために検証テストを実行します。 • [Edit (編集)] : [Edit Upgrade Task (アップグレードタスクの編集)] ウィンドウを表示します。選択したタスクを編集することを可能にします。 • [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします • [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。 • [Canceled (キャンセル)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> • [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。 • [Started (開始)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> • [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします • [Paused (一時停止)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> • [Resume (再開)] : 次の手順でタスクを再起動するにはこのボタンを使用します。 • [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします。 • [Start Task (タスク開始)] : タスク開始はタスクが手動で開始された場合に存在します。このアクションでは時間は選択されません。 <p>(注) [タスク開始 (Start Task)] は、[開始時間の設定 (Set Start Time)] パネルで [手動でタスクを開始 (Start task manually)] オプションを選択した場合にのみ適用されます。</p> <p>タスクを手動で選択すると再開オプションはモニタリング ページで使用できなくなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします • Paused due to Error (エラーにより一時停止) : <ul style="list-style-type: none"> • [Retry (再試行)] : これによりタスクが再起動し、最後に失敗したタスクのアクションが再試行されます。 • [Resume (再開)] : これにより、タスクが次の手順 (失敗した手順の後の手順) で開始します。 • [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします • [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします • [Successful (成功)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> • [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします

設定	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。 • [Failed (失敗)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> • [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリングページにナビゲートします • [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。
表示	<p>ドロップダウンリストから以下のオプションのいずれかを選択することで、アップグレードタスクをステータスごとにフィルタすることを可能にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Quick Filter (クイック フィルタ)] : ステータスに基づいてタスクをフィルタします。 • [All (すべて)] : 利用可能なすべてのタスクを表示します。 • [Scheduled (スケジュール済み)] : スケジュールされたタスクを表示します。 • [Canceled (キャンセル)] : キャンセルされたタスクを表示します。 • [Running (実行中)] : 開始されたタスクを表示します。 • [Paused (一時停止)] : 一時停止されたタスクを表示します。 • [Paused due To Error (エラーにより一時停止)] : システムのエラーにより一時停止しているタスクを表示します。 • [成功 (Successful)] : 成功したタスクを表示します。 • [失敗 (Failed)] : 失敗したタスクを表示します。
フィルタ	<p>検索ウィンドウの最下部で検索ルールを設定するには、ステータスを選択し、[Filter (フィルタ)] をクリックします。</p>
削除	<p>タスクの横にあるチェックボックスをクリックし、テーブルの最上部にある [Delete (削除)] ボタンをクリックします。このアクションは、[Failed (失敗)]、[Successful (成功)]、[Scheduled (スケジュール)]、[Paused (一時停止)] の状態に適用されます。</p>
[Add Upgrade Task (アップグレードタスクの追加)] ボタン	<p>[アップグレードタスクの追加 (Add Upgrade Task)] ウィザードを開きます。</p> <p>(注) [アップグレードタスクの追加 (Add Upgrade Task)] ウィザードは、特定のアップグレードタスクの [操作 (Actions)] 列の [編集 (Edit)] を選択することでも開くことができます。</p>
<p>[アップグレードタスクの追加 (Add Upgrade Task)] ウィザード ウィンドウ</p> <p>アップグレードタスクの追加方法の詳細については、「アップグレードタスクの作成」を参照してください。</p>	
[クラスタの選択 (Choose Cluster)] ページ	<p>[Choose Cluster (クラスタの選択)] ページから、クラスタおよび製品をドロップダウンリストから選択します (すべての製品が [Products (製品)] のデフォルトオプションになっています)。一度クラスタを選択したら、[Cluster Nodes (クラスタ ノード)] テーブル内のノードのリストが表示されます。</p>
[Choose Upgrade File (アップグレードファイルの選択)] ページ	<p>[アップグレードファイルの選択 (Choose Upgrade File)] ページから、アップグレードされる各製品に対するアップグレードファイルを選択します。[クラスタの選択 (Choose Cluster)] ページで選択した製品タイプのファイルだけを選択するオプションを利用できます。</p>

設定	説明
[開始時間とアップグレードオプションの設定 (Set Start Time and Upgrade Options)] ページ	<p>[Set Start Time and Upgrade Options (開始時間とアップグレードオプションの設定)] ページから、タスクに対する開始時間を選択します。</p> <p>(注) 指定された時間は、選択されたクラスタのタイムゾーンではなく、Cisco Prime Collaboration Deployment サーバ時間に基づいています。</p> <p>特定の開始時間の設定、タスクの手動による開始、またはウィザード完了時にタスクを即時開始する設定のオプションがあります。</p> <p>また、正常なアップグレードに続けて新規バージョンに自動的に切り替えるオプションもあります。</p>
[Specify Run Sequence (実行シーケンスの指定)] ページ	<p>[実行シーケンスの指定 (Specify Run Sequence)] から、アップグレードがサーバで処理されるシーケンスを指定します。手順のシーケンスは、特定の手順の上矢印と下矢印をクリックすることで変更できます。手順を追加および削除したり、既存の手順を編集できます。</p> <p>前回のシーケンスを再利用するには、[Use Last Configured Run Sequence (最後に設定した実行シーケンスを使用)] ボックスを選択します。</p> <p>デフォルトでは、各ノードが手順にシーケンスされています。</p>
[レビュー (Review)] ページ	<p>[レビュー (Review)] ページは、前の手順で選択したオプションの概要を示します。[ノード (Nodes)] フィールドにリストされるノードは表示専用であり、選択することはできません。</p> <p>将来の参照用に [注記 (Notes)] フィールドに注記を追加することができます。</p>

関連トピック

[アップグレードタスク](#)

バージョン切り替えビュー

設定	説明
スケジュールされたタスクおよび履歴テーブル	
ステータス	<p>バージョン切り替えタスクに関する情報を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Successful (成功)] : タスクがエラーなしで終了したことを示します。 • [Running (実行中)] : タスクが現在実行中であることを示します • [Scheduled (スケジュール)] : タスクがまだ開始されていないことを示します • [Canceled (取り消し)] : ユーザがタスクを実行しないことを選択したことを示します • [Paused (一時停止)] : タスクが一時停止状態でフィードバック待機中であることを示します • [Paused due To Error (エラーにより一時停止)] : タスクがシステム内のエラーにより一時停止状態になっていることを示しています • [Failed (失敗)] : エラーによりタスクが停止したことを示しています
開始時刻	バージョン切り替えタスクの開始時刻を指定します。
最後のステータス レポート時刻	アクションが完了した時刻を指定します。完了したアクションは成功または失敗のいずれかの状態です。
クラスタ	バージョン切り替えクラスタを指定します。

バージョン切り替えビュー

設定	説明
注記 (Notes)	[バージョン切り替えの追加 (Add Switch Version)] ウィザードの [レビュー (Review)] 部分で追加された注記

設定	説明
アクション (Actions)	

設定	説明
	<p>以下は、ステータスと対応するアクションを示しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Scheduled (スケジュール済み)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> • [検証テストの実行 (Run Validation Test)] : すべてのノードが利用可能で、指定したどの新規アドレスにもアクセスできないことを確認する検証テストを実行します。 • [Edit (編集)] : [Edit Switch Version Task (バージョン切り替えタスクの編集)] ウィンドウを示します。選択したタスクを編集することを可能にします。 • [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします • [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。 • [Canceled (キャンセル)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> • [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。 • [Started (開始)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> • [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします • [Paused (一時停止)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> • [Resume (再開)] : 次の手順でタスクを再起動します。 • [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします • [Start Task (タスク開始)] : タスク開始はタスクが手動で開始された場合に存在します。このアクションでは時間は選択されません。 <p>(注) [タスク開始 (Start Task)] は、[開始時間の設定 (Set Start Time)] パネルで [手動でタスクを開始 (Start task manually)] オプションを選択した場合にのみ適用されます。</p> <p>タスクを手動で選択すると再開オプションはモニタリング ページで使用できなくなります。</p> • [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします • Paused due to Error (エラーにより一時停止) : <ul style="list-style-type: none"> • [再試行 (Retry)] : これによりタスクが再起動し、最後に失敗したタスクの操作が再試行されず。 • [再開 (Resume)] : これにより、タスクが次の手順 (失敗した手順の後の手順) で開始します。 • [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします • [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします • [Successful (成功)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> • [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします • [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。 • [Failed (失敗)] ステータス :

設定	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします • [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。
表示	<p>ドロップダウン リストから以下のオプションのいずれかを選択することで、バージョン切り替えタスクをステータスごとにフィルタすることを可能にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Quick Filter (クイック フィルタ)] : ステータスに基づいてタスクをフィルタします。 • [All (すべて)] : 利用可能なすべてのタスクを表示します。 • [Scheduled (スケジュール済み)] : スケジュールされたタスクを表示します。 • [Canceled (キャンセル)] : キャンセルされたタスクを表示します。 • [Running (実行中)] : 開始されたタスクを表示します。 • [Paused (一時停止)] : 一時停止されたタスクを表示します。 • [Paused due To Error (エラーにより一時停止)] : システムのエラーにより一時停止しているタスクを表示します。 • [成功 (Successful)] : 成功したタスクを表示します。 • [失敗 (Failed)] : 失敗したタスクを表示します。
フィルタ	<p>検索ウィンドウの最下部で検索ルールを設定するには、ステータスを選択し、[フィルタ (Filter)] をクリックします。</p>
削除 (Delete)	<p>タスクの横にあるチェックボックスをオンにし、テーブルの最上部にある[削除 (Delete)] ボタンをクリックします。削除するタスクの[操作 (Actions)] 列の下の[削除 (Delete)] をクリックすることもできます。</p>
[バージョン切り替えタスクの追加 (Add Switch Versions Task)] ボタン	<p>[バージョン切り替えタスク (Switch Versions Task)] ウィザードを開きます。</p> <p>(注) [バージョン切り替えタスク (Switch Versions Task)] ウィザードは、特定のバージョン切り替えタスクの[操作 (Actions)] 列で[編集 (Edit)] を選択することでも開くことができます。</p>
[バージョン切り替えタスクの追加 (Add Switch Versions Task)] ウィンドウ	<p>バージョン切り替えタスクの追加方法については、「バージョン切り替えタスクの作成」を参照してください。</p>
[クラスタの選択 (Choose Cluster)] ページ	<p>[クラスタの選択 (Choose Cluster)] ページで、ドロップダウン リストからクラスタを選択します。クラスタの選択後に、ドロップダウン リストから製品バージョン (パブリッシュにインストールされているバージョン) を選択する必要があります。クラスタに複数の製品がある場合、一つ以上の製品のバージョンを切り替えないオプションがあります。1つの有効なバージョンを選択するかがり先に進むことができます。</p>
[開始時間の設定 (Set Start Time)] ページ	<p>[開始時間の設定 (Set Start Time)] ページから、タスクに対する開始時間を選択します。</p> <p>(注) 指定された時間は、選択されたクラスタのタイムゾーンではなく、Cisco Prime Collaboration Deployment サーバ時間に基づいています。</p> <p>特定の時間の開始、タスクの手動による開始、またはウィザードの完了時の即時開始の設定のオプションがあります。</p>

サーバ再起動ビュー

設定	説明
[実行シーケンスの設定 (Set Run Sequence)] ページ	<p>[Specify Run Sequence (実行シーケンスの指定)] から、バージョン切り替えがサーバで処理されるシーケンスを指定します。手順のシーケンスは、特定の手順の上下矢印をクリックすることで変更できます。手順を追加および削除したり、既存の手順を編集できます。</p> <p>前回のシーケンスを再利用するには、[最後に設定した実行シーケンスを使用 (Use Last Configured Run Sequence)] チェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトでは、各ノードが手順にシーケンスされています。[Revert to Default (デフォルトに戻す)] ボタンは、手順を元の状態に戻します。</p>
[レビュー (Review)] ページ	<p>[レビュー (Review)] ページには、これまでの手順で選択したオプションの概要が表示されます。[ノード (Nodes)] フィールドにリストされるノードは表示専用であり、選択することはできません。</p> <p>将来の参照用に [注記 (Notes)] フィールドに注記を追加することができます。</p>

関連トピック

[バージョン切り替えタスク](#)

サーバ再起動ビュー

設定	説明
スケジュールされたタスクおよび履歴テーブル	
ステータス	<p>サーバ再起動タスクに関する情報を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [成功 (Successful)] : タスクがエラーなしで終了したことを示します。 • [実行中 (Running)] : タスクが現在実行中であることを示します。 • [スケジュール済み (Scheduled)] : タスクがまだ開始されていないことを示します。 • [取り消し (Canceled)] : ユーザがタスクを実行しないことを選択したことを示します。 • [Paused (一時停止)] : タスクが一時停止状態でフィードバック待機中であることを示します • [Paused due To Error (エラーにより一時停止)] : タスクがシステム内のエラーにより一時停止状態になっていることを示しています • [Failed (失敗)] : エラーによりタスクが停止したことを示しています
開始時刻	サーバ再起動タスクの開始時刻を指定します。
最後のステータス レポート時刻	アクションが完了した時刻を指定します。完了したアクションは成功または失敗のいずれかの状態です。
クラスタ	サーバ再起動クラスタを指定します。
注記 (Notes)	[再起動タスクの追加 (Add Restart Task)] ウィザードの [レビュー (Review)] 部分で追加された注記

設定	説明
アクション (Actions)	

設定	説明
	<p>以下は、ステータスと対応するアクションを示しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Scheduled (スケジュール済み)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> • [Run Validation Test (検証テストの実行)] : すべてのノードが利用可能で、指定したどの新規アドレスにもアクセスできないことを確認する検証テストを実行します。 • [Edit (編集)] : [Edit Upgrade Task (アップグレードタスクの編集)] ウィンドウを表示します。選択したタスクを編集することを可能にします。 • [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします • [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。 • [Canceled (キャンセル)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> • [Edit (編集)] : [Edit Server Restart Task (サーバ再起動タスクの編集)] ウィンドウを表示します。選択したタスクを編集することを可能にします。 • [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。 • [Started (開始)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> • [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします • [Paused (一時停止)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> • [Resume (再開)] : 次の手順でタスクを再起動します。 • [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリングページにナビゲートします • [Start Task (タスク開始)] : タスク開始はタスクが手動で開始された場合に存在します。このアクションでは時間は選択されません。 <p>(注) [タスク開始 (Start Task)] は、[開始時間の設定 (Set Start Time)] パネルで [手動でタスクを開始 (Start task manually)] オプションを選択した場合にのみ適用されます。</p> <p>タスクを手動で選択すると再開オプションはモニタリングページで使用できなくなります。</p> • [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします • Paused due to Error (エラーにより一時停止) : <ul style="list-style-type: none"> • [Retry (再試行)] : これによりタスクが再起動し、最後に失敗したタスクのアクションが再試行されます。 • [Resume (再開)] : これにより、タスクが次の手順 (失敗した手順の後の手順) で開始します。 • [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリングページにナビゲートします • [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします • [Successful (成功)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> • [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリングページにナビゲートします • [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。

設定	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • [Failed (失敗)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> • [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします • [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。
表示	<p>ドロップダウン リストから以下のオプションのいずれかを選択することで、再起動タスクをステータスごとにフィルタすることを可能にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Quick Filter (クイック フィルタ)] : ステータスに基づいてタスクをフィルタします。 • [All (すべて)] : 利用可能なすべてのタスクを表示します。 • [Scheduled (スケジュール済み)] : スケジュールされたタスクを表示します。 • [Canceled (キャンセル)] : キャンセルされたタスクを表示します。 • [Running (実行中)] : 開始されたタスクを表示します。 • [Paused (一時停止)] : 一時停止されたタスクを表示します。 • [Paused due To Error (エラーにより一時停止)] : タスクがシステム内のエラーにより一時停止状態になっていることを示しています。 • [成功 (Successful)] : 成功したタスクを表示します。 • [失敗 (Failed)] : 失敗したタスクを表示します。
フィルタ	<p>検索ウィンドウの最下部で検索ルールを設定するには、ステータスを選択し、[Filter (フィルタ)] をクリックします。</p>
削除	<p>タスクの横にあるチェックボックスをクリックし、テーブルの最上部にある [Delete (削除)] ボタンをクリックします。削除するタスクの [Actions (アクション)] 列の下の [Delete (削除)] をクリックすることもできます。</p>
[サーバ再起動タスクの追加 (Add Server Restart Task)] ボタン	<p>[サーバ再起動タスクの追加 (Add Server Restart Task)] ウィザードを開きます。</p> <p>(注) [サーバ再起動タスクの追加 (Add Server Restart Task)] ウィザードは、特定のサーバ再起動タスクの [操作 (Actions)] 列の [編集 (Edit)] を選択することで開くことができます。</p>
[サーバ再起動タスクの追加 (Add Server Restart Task)] ウィンドウ	<p>サーバ再起動タスクを追加する方法については「再起動タスクの作成」を参照してください。</p>
[クラスタの選択 (Choose Cluster)] ページ	<p>[クラスタの選択 (Choose Cluster)] ページで、ドロップダウン リストからクラスタを選択します。クラスタの選択後、選択されたクラスタに基づいて [クラスタ ノード (Cluster Nodes)] テーブルに示されているノードが変更されます。再起動するサーバを選択します。</p>
[開始時間の設定 (Set Start Time)] ページ	<p>[開始時間の設定 (Set Start Time)] ページから、タスクに対する開始時間を選択します。</p> <p>(注) 指定された時間は、選択されたクラスタのタイムゾーンではなく、Cisco Prime Collaboration Deployment サーバ時間に基づいています。</p> <p>特定の開始時間の設定、タスクの手動による開始、またはウィザード完了時にタスクを即時開始する設定のオプションがあります。</p>

再アドレス付けビュー

設定	説明
[実行シーケンスの設定 (Set Run Sequence)] ページ	<p>[実行シーケンスの設定 (Set Run Sequence)] から、再起動がサーバで処理されるシーケンスを指定します。手順のシーケンスは、特定の手順の上矢印と下矢印をクリックすることで変更できます。手順を追加および削除したり、既存の手順を編集できます。</p> <p>前回のシーケンスを再利用するには、[最後に設定した実行シーケンスを使用 (Use Last Configured Run Sequence)] チェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトでは、各ノードが手順にシーケンスされています。[Revert to Default (デフォルトに戻す)] ボタンは、手順を元の状態に戻します。</p>
[レビュー (Review)] ページ	<p>[レビュー (Review)] ページは、前の手順で選択したオプションの概要を示します。[ノード (Nodes)] フィールドにリストされるノードは表示専用であり、選択することはできません。</p> <p>将来の参照用に [注記 (Notes)] フィールドに注記を追加することができます。</p>

関連トピック

[サーバ再起動タスク](#)

再アドレス付けビュー

設定	説明
スケジュールされたタスクおよび履歴テーブル	
ステータス	<p>再アドレス付けタスクに関する情報を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Successful (成功)] : タスクがエラーなしで終了したことを示します。 • [Running (実行中)] : タスクが現在実行中であることを示します • [Scheduled (スケジュール)] : タスクがまだ開始されていないことを示します • [Canceled (取り消し)] : ユーザがタスクを実行しないことを選択したことを示します • [Paused (一時停止)] : タスクが一時停止状態でフィードバック待機中であることを示します • [Paused due To Error (エラーにより一時停止)] : タスクがシステム内のエラーにより一時停止状態になっていることを示しています • [Failed (失敗)] : エラーによりタスクが停止したことを示しています
開始時刻	再アドレス付けタスクの開始時刻を指定します。
最後のステータス レポート時刻	アクションが完了した時刻を指定します。完了したアクションは成功または失敗のいずれかの状態です。
クラスタ	再アドレス付けクラスタを指定します。
注記 (Notes)	[再アドレス付けタスクの追加 (Add Readdress Task)] ウィザードの [レビュー (Review)] 部分で追加された注記

設定	説明
アクション	

設定	説明
	<p>以下は、ステータスと対応するアクションを示しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Scheduled (スケジュール済み)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> • [Run Validation Test (検証テストの実行)] : すべてのノードが利用可能で、指定したどの新規アドレスにもアクセスできないことを確認する検証テストを実行します。 • [Edit (編集)] : [Edit Readdress Task (再アドレス付けタスクの編集)] ウィンドウを表示します。選択したタスクを編集することを可能にします。 • [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします • [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。 • [Canceled (キャンセル)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> • [Edit (編集)] : [Edit Upgrade Task (アップグレードタスクの編集)] ウィンドウを表示します。選択したタスクを編集することを可能にします。 • [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。 • [Started (開始)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> • [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします • [Paused (一時停止)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> • [Resume (再開)] : 次の手順でタスクを再起動します。 • [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします • [Start Task (タスク開始)] : タスク開始はタスクが手動で開始された場合に存在します。このアクションでは時間は選択されません。 <p>(注) [Start Task (タスク開始)] は、[開始時間の設定 (Set Start Time)] ページ パネルで [Start task manually (手動でタスクを開始)] オプションを選択した場合にのみ適用されます。</p> <p>タスクを手動で選択すると再開オプションはモニタリング ページで使用できなくなります。</p> • [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします • Paused due to Error (エラーにより一時停止) : <ul style="list-style-type: none"> • [Retry (再試行)] : これによりタスクが再起動し、最後に失敗したタスクのアクションが再試行されます。 • [Resume (再開)] : これにより、タスクが次の手順 (失敗した手順の後の手順) で開始します。 • [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします • [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします • [Successful (成功)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> • [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします

設定	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。 • [Failed (失敗)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> • [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします • [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。
表示	<p>ドロップダウンリストから以下のオプションのいずれかを選択することで、再アドレス付けタスクをステータスごとにフィルタすることを可能にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Quick Filter (クイック フィルタ)] : ステータスに基づいてタスクをフィルタします。 • [All (すべて)] : 利用可能なすべてのタスクを表示します。 • [Scheduled (スケジュール済み)] : スケジュールされたタスクを表示します。 • [Canceled (キャンセル)] : キャンセルされたタスクを表示します。 • [Running (実行中)] : 開始されたタスクを表示します。 • [Paused (一時停止)] : 一時停止されたタスクを表示します。 • [Paused due To Error (エラーにより一時停止)] : システムのエラーにより一時停止しているタスクを表示します。 • [成功 (Successful)] : 成功したタスクを表示します。 • [失敗 (Failed)] : 失敗したタスクを表示します。
フィルタ	<p>検索ウィンドウの最下部で検索ルールを設定するには、ステータスを選択し、[Filter (フィルタ)] をクリックします。</p>
削除 (Delete)	<p>タスクの横にあるチェックボックスをオンにし、テーブルの最上部にある [削除 (Delete)] ボタンをクリックします。削除するタスクの [操作 (Actions)] 列の下の [削除 (Delete)] をクリックすることもできます。</p>
[再アドレス付けタスクの追加 (Add Readdress Task)] ボタン	<p>[再アドレス付けタスクの追加 (Add Readdress Task)] ウィザードを開きます。</p> <p>(注) [再アドレス付けタスクの追加 (Add Readdress Task)] ウィザードは、特定の再アドレス付けタスクの [操作 (Actions)] 列の [編集 (Edit)] を選択することでも開くことができます。</p>
<p>[再アドレス付けタスクの追加 (Add Readdress Task)] ウィンドウ</p> <p>再アドレス付けタスクの追加方法については「再アドレス付けタスクの作成」を参照してください。</p>	

設定	説明
[クラスタの選択 (Choose Cluster)] ページ	<p>[Choose Cluster (クラスタの選択)] ページで、ドロップダウン リストからクラスタを選択します。このクラスタに関連付けられたノードで [View Nodes (ノードの表示)] をクリックします。以下を識別する表内のノードをリストする [View UC Cluster Nodes (UC クラスタ ノードの表示)] ダイアログ ボックスが開きます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ホスト名 • IP アドレス • 製品 • ロール <p>[View UC Cluster Nodes (UC クラスタ ノードの表示)] ダイアログ ボックスを編集することはできません。[Close (閉じる)] をクリックし、[Choose Cluster (クラスタの選択)] ページに戻ります。</p>
[新規ホスト名/IP アドレスの入力 (Enter New Hostnames/IP Addresses)] ページ	<p>[新規ホスト名/IP アドレスの入力 (Enter New Hostnames/IP Addresses)] ページから、[Actions (アクション)] 列の下の [Edit (編集)] をクリックして [Edit Hostname/IP Address (ホスト名/IP アドレスの編集)] ダイアログ ボックスを開きます。このダイアログ ボックスを使用して、再アドレス付けをするクラスタ ノードに対する新規ホスト名または IP アドレスを入力できます。DHCP またはスタティック IP アドレスを使用するオプションがあります。</p>
[開始時間の設定 (Set Start Time)] ページ ページ	<p>[開始時間の設定 (Set Start Time)] ページ ページから、タスクに対する開始時間を選択します。</p> <p>(注) 指定された時間は、選択されたクラスタのタイムゾーンではなく、Cisco Prime Collaboration Deployment サーバ時間に基づいています。</p> <p>特定の開始時間の設定、タスクの手動による開始、またはウィザード完了時にタスクを即時開始する設定のオプションがあります。</p> <p>このページを使用して、再アドレスオプションを有効にすることもできます。サブネットまたはゲートウェイの変更時に再アドレス サブステップとネットワーク変更検証サブステップの間で一時的に停止する場合に、[外部変更を許可するためのネットワーク検証サブステップの前で一時的に停止する (Pause before network verification substeps to allow external changes)] チェックボックスをオンにします。この一時停止中に、VLAN などの仮想マシン構成に必要なネットワーク変更を行うことができます。</p> <p>(注) 変更後に、タスクを再開して検証を完了させます。</p>
[実行シーケンスの設定 (Set Run Sequence)] ページ	<p>[実行シーケンスの設定 (Set Run Sequence)] から、再アドレス付けがサーバで処理されるシーケンスを指定します。手順のシーケンスは、特定の手順の上下矢印をクリックすることで変更できます。手順を追加および削除したり、既存の手順を編集できます。</p> <p>前回のシーケンスを再利用するには、[最後に設定した実行シーケンスを使用 (Use Last Configured Run Sequence)] チェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトでは、各ノードが手順にシーケンスされています。[Revert to Default (デフォルトに戻す)] ボタンは、手順を元の状態に戻します。</p>
[Review (レビュー)] ページ	<p>[レビュー (Review)] ページは、前の手順で選択したオプションの概要を示します。[ノード (Nodes)] フィールドにリストされるノードは表示専用であり、選択することはできません。</p> <p>将来の参照用に [注記 (Notes)] フィールドに注記を追加することができます。</p>

関連トピック

[再アドレス付けタスク](#)

インストール ビュー

設定	説明
スケジュールされたタスクおよび履歴テーブル	
ステータス	<p>インストール タスクに関する情報を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Successful (成功)] : タスクがエラーなしで終了したことを示します • [Running (実行中)] : タスクが現在実行中であることを示します • [Scheduled (スケジュール)] : タスクがまだ開始されていないことを示します • [Canceled (取り消し)] : ユーザがタスクを実行しないことを選択したことを示します • [Paused (一時停止)] : タスクが一時停止状態でフィードバック待機中であることを示します • [Paused due To Error (エラーにより一時停止)] : タスクがシステム内のエラーにより一時停止状態になっていることを示しています • [Failed (失敗)] : エラーによりタスクが停止したことを示しています
開始時刻	インストール タスクの開始時刻を指定します。
最後のステータス レポート時刻	アクションが完了した時刻を指定します。完了したアクションは成功または失敗のいずれかの状態です。
クラスタ	インストール クラスタを指定します
注記	[インストール タスクの追加 (Add Install Task)] ウィザードの [レビュー (Review)] 部分で追加された注記

■ インストールビュー

設定	説明
アクション	

設定	説明
	<p>以下は、ステータスと対応するアクションを示しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Scheduled (スケジュール済み)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> • [Run Validation Test (検証テストの実行)] : すべての ESXi ホストが存在し、VM が正しい状態にあり、インストールで使用する .iso ファイルが存在することを確認するための検証テストを実行します。 • [Edit (編集)] : [Edit Upgrade Task (アップグレードタスクの編集)] ウィンドウを表示します。選択したタスクを編集することを可能にします。 • [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします • [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。 • [Canceled (キャンセル)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> • [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。 • [Started (開始)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> • [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします • [Paused (一時停止)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> • [Resume (再開)] : 次の手順でタスクを再起動します。 • [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします • [Start Task (タスク開始)] : タスク開始はタスクが手動で開始された場合に存在します。このアクションでは時間は選択されません。 <p>(注) [タスク開始 (Start Task)] は、[開始時間の設定 (Set Start Time)] パネルで [手動でタスクを開始 (Start task manually)] オプションを選択した場合にのみ適用されます。</p> <p>タスクを手動で選択すると再開オプションはモニタリングページで使用できなくなります。</p> • [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします • Paused due to Error (エラーにより一時停止) : <ul style="list-style-type: none"> • [Retry (再試行)] : 最後に失敗した手順を再試行します。このボタンによって、タスクは失敗した最後の手順を再試行し、タスクを再起動します。 • [再開 (Resume)] : 次の手順でタスクを再開します。このオプションは、失敗した手順が重要ではない場合、またはその手順を手動で実行した場合にのみ使用してください。 • [詳細の表示 (View Details)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします。 • [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします • [Successful (成功)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> • [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします • [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。

設定	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • [Failed (失敗)] ステータス : • [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします • [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。
表示	<p>ドロップダウンリストから以下のオプションのいずれかを選択することで、インストールタスクをステータスごとにフィルタすることを可能にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Quick Filter (クイック フィルタ)] : ステータスに基づいてタスクをフィルタします。 • [All (すべて)] : 利用可能なすべてのタスクを表示します。 • [Scheduled (スケジュール済み)] : スケジュールされたタスクを表示します。 • [Canceled (キャンセル)] : キャンセルされたタスクを表示します。 • [Running (実行中)] : 開始されたタスクを表示します。 • [Paused (一時停止)] : 一時停止されたタスクを表示します。 • [Paused due To Error (エラーにより一時停止)] : システムのエラーにより一時停止しているタスクを表示します。 • [成功 (Successful)] : 成功したタスクを表示します。 • [失敗 (Failed)] : 失敗したタスクを表示します。
フィルタ	<p>検索ウィンドウの最下部で検索ルールを設定するには、ステータスを選択し、[Filter (フィルタ)] をクリックします。</p>
削除	<p>タスクの横にあるチェックボックスをクリックし、テーブルの最上部にある [Delete (削除)] ボタンをクリックします。削除するタスクの [Actions (アクション)] 列の下の [Delete (削除)] をクリックすることもできます。</p>
[インストール タスクの追加 (Add Install Task)] ボタン	<p>[インストール タスクの追加 (Add Install Task)] ウィザードを開きます。</p> <p>(注) [インストール タスクの追加 (Add Installation Task)] ウィザードは、特定のインストール タスクの [操作 (Actions)] 列の [編集 (Edit)] を選択することでも開くことができます。</p>
[インストール タスクの追加 (Add Install Task)] ウィンドウ	<p>インストール タスクの追加方法については、「インストール タスクの作成」を参照してください。</p>
[インストール クラスタの選択 (Choose Installation Cluster)] ページ	<p>[クラスタの選択 (Choose Cluster)] ページで、ドロップダウンリストからクラスタを選択します。クラスタの選択後、選択されたクラスタに基づいて [インストール クラスタ ノード (Installation Cluster Nodes)] テーブルに示されているノードが変更されます。</p>
[インストール ファイルの選択 (Choose Installation Files)] ページ	<p>[インストール ファイルの選択 (Choose Installation Files)] ページから、ステージング クラスタにインストールするインストール イメージを選択します。ISO イメージは、Cisco Prime Collaboration Deployment のシステム sftp サーバ上の /install ディレクトリにアップロードする必要があります。</p>

設定	説明
[開始時間の設定 (Set Start Time)] ページ	[開始時間の設定 (Set Start Time)] ページから、タスクに対する開始時間を選択します。 (注) 指定された時間は、選択されたクラスタのタイムゾーンではなく、Cisco Prime Collaboration Deployment サーバ時間に基づいています。 特定の開始時間の設定、タスクの手動による開始、またはウィザード完了時にタスクを即時開始する設定のオプションがあります。
[インストール シーケンスの指定 (Specify Installation Sequence)] ページ	[インストール シーケンスの指定 (Specify Installation Sequence)] から、インストールがサーバで処理されるシーケンスを指定します。手順のシーケンスは、特定の手順の上矢印と下矢印をクリックすることで変更できます。手順を追加および削除したり、既存の手順を編集できます。 デフォルトでは、各ノードが手順にシーケンスされています。
[Review (レビュー)] ページ	[レビュー (Review)] ページは、前の手順で選択したオプションの概要を示します。[ノード (Nodes)] フィールドにリストされるノードは表示専用であり、選択することはできません。 将来の参照用に [注記 (Notes)] フィールドに注記を追加することができます。

関連トピック

[インストール タスク](#)

移行ビュー

設定	説明
スケジュールされたタスクおよび履歴テーブル	
ステータス	移行タスクに関する情報を提供します。 <ul style="list-style-type: none"> • [Successful (成功)] : タスクがエラーなしで終了したことを示します • [Running (実行中)] : タスクが現在実行中であることを示します • [Scheduled (スケジュール)] : タスクがまだ開始されていないことを示します • [Canceled (取り消し)] : ユーザがタスクを実行しないことを選択したことを示します • [Paused (一時停止)] : タスクが一時停止状態でフィードバック待機中であることを示します • [Paused due To Error (エラーにより一時停止)] : タスクがシステム内のエラーにより一時停止状態になっていることを示しています • [Failed (失敗)] : エラーによりタスクが停止したことを示しています
開始時刻	移行タスクの開始時刻を指定します。
最後のステータス レポート時刻	アクションが完了した時刻を指定します。完了したアクションは成功または失敗のいずれかの状態です。
クラスタ	移行されるクラスタを指定します。
注記 (Notes)	[移行タスクの追加 (Add Migration Task)] ウィザードの [レビュー (Review)] 部分で追加された注記

移行ビュー

設定	説明
アクション	

設定	説明
	<p>以下は、ステータスと対応するアクションを示しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Scheduled (スケジュール済み)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> • [Run Validation Test (検証テストの実行)] : すべてのノードが利用可能で、指定したどの新規アドレスにもアクセスできないことを確認する検証テストを実行します。VMが存在するESXiホストがマウントされていることも確認します。使用される.isoファイルが存在することも検証します。 • [Edit (編集)] : [Edit Upgrade Task (アップグレードタスクの編集)] ウィンドウを表示します。選択したタスクを編集することを可能にします。 • [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします • [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。 • [Canceled (キャンセル)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> • [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。 • [Started (開始)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> • [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします • [Paused (一時停止)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> • [Resume (再開)] : 次の手順でタスクを再起動します。 • [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします • [Start Task (タスク開始)] : タスク開始はタスクが手動で開始された場合に存在します。このアクションでは時間は選択されません。 <p>(注) [タスク開始 (Start Task)] は、[開始時間の設定 (Set Start Time)] パネルで [手動でタスクを開始 (Start task manually)] オプションを選択した場合にのみ適用されます。</p> <p>タスクを手動で選択すると再開オプションはモニタリングページで使用できなくなります。</p> • [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします • Paused due to Error (エラーにより一時停止) : <ul style="list-style-type: none"> • [Retry (再試行)] : 最後に失敗した手順を再試行します。このボタンによって、タスクは失敗した最後の手順を再試行し、タスクを再起動します。 • [再開 (Resume)] : 次の手順でタスクを再開します。このオプションは、失敗した手順が重要ではない場合、またはその手順を手動で実行した場合にのみ使用してください。 • [詳細の表示 (View Details)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします。 • [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします • [Successful (成功)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> • [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします

設定	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。 • [Failed (失敗)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> • [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします • [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。
表示	<p>ドロップダウン リストから以下のオプションのいずれかを選択することで、移行タスクをステータスごとにフィルタすることを可能にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Quick Filter (クイック フィルタ)] : ステータスに基づいてタスクをフィルタします。 • [All (すべて)] : 利用可能なすべてのタスクを表示します。 • [Scheduled (スケジュール済み)] : スケジュールされたタスクを表示します。 • [Canceled (キャンセル)] : キャンセルされたタスクを表示します。 • [Running (実行中)] : 開始されたタスクを表示します。 • [Paused (一時停止)] : 一時停止されたタスクを表示します。 • [Paused due To Error (エラーにより一時停止)] : システムのエラーにより一時停止しているタスクを表示します。 • [成功 (Successful)] : 成功したタスクを表示します。 • [失敗 (Failed)] : 失敗したタスクを表示します。
フィルタ	<p>検索ウィンドウの最下部で検索ルールを設定するには、ステータスを選択し、[Filter (フィルタ)] をクリックします。</p>
削除 (Delete)	<p>タスクの横にあるチェックボックスをオンにし、テーブルの最上部にある [削除 (Delete)] ボタンをクリックします。削除するタスクの [操作 (Actions)] 列の下の [削除 (Delete)] をクリックすることもできます。</p>
[移行タスクの追加 (Add Migration Task)] ボタン	<p>[移行タスクの追加 (Add Migration Task)] ウィザードを開きます。</p> <p>(注) [移行タスクの追加 (Add Migration Task)] ウィザードは、特定の移行タスクの [操作 (Actions)] 列の [編集 (Edit)] を選択することでも開くことができます。</p>
[移行タスクの追加 (Add Migration Task)] ウィンドウ	<p>移行タスクの追加方法については、「移行タスクの追加」を参照してください。</p>
[送信元および宛先クラスタの選択 (Choose Source and Destination Clusters)] ページ	<p>[送信元および宛先クラスタの選択 (Choose Source and Destination Clusters)] ページで、ドロップダウン リストから送信元 UC クラスタを選択します。送信元クラスタの選択後に、ドロップダウン リストから宛先クラスタを選択し、[送信元から宛先クラスタのノード マッピング (Node Mapping from Source to Destination Cluster)] テーブルからノードを選択します。</p>
[アップグレード ファイルの選択 (Choose Upgrade File)] ページ	<p>[Choose Upgrade File (アップグレードファイルの選択)] ページから、アップグレードされる各製品に対するアップグレード ファイルを選択します。[Choose Cluster (クラスタの選択)] ページで選択した製品タイプのファイルを選択するオプションのみ利用できます。</p>

設定	説明
[開始時間の設定 (Set Start Time)] ページ ページ	<p>[開始時間の設定 (Set Start Time)] ページ ページから、タスクに対する開始時間を選択します。</p> <p>(注) 指定された時間は、選択されたクラスタのタイムゾーンではなく、Cisco Prime Collaboration Deployment サーバ時間に基づいています。</p> <p>特定の開始時間の設定、タスクの手動による開始、またはウィザード完了時にタスクを即時開始する設定のオプションがあります。</p>
[移行手順の指定 (Specify Migration Procedure)] ページ	<p>[移行手順の指定 (Specify Migration Procedure)] ページから、移行がサーバで処理されるシーケンスを指定します。手順のシーケンスは、特定の手順の上矢印と下矢印をクリックすることで変更できます。手順を追加および削除したり、既存の手順を編集できます。</p> <p>デフォルトでは、各ノードが手順にシーケンスされています。[Revert to Default (デフォルトに戻す)] ボタンは、手順を元の状態に戻します。</p>
[Review (レビュー)] ページ	<p>[レビュー (Review)] ページは、前の手順で選択したオプションの概要を示します。[ノード (Nodes)] フィールドにリストされるノードは表示専用であり、選択することはできません。</p> <p>将来の参照用に [注記 (Notes)] フィールドに注記を追加することができます。</p>

関連トピック

[移行タスク](#)

インベントリ ビュー要素

クラスタ

設定	説明
クラスタ テーブル	
クラスタ名	使用可能なクラスタが表示されます。
製品およびバージョン	クラスタが追加された製品とそのバージョンが表示されます。
ノード	クラスタに関連付けられたノードの数が表示されます。
クラスタ タイプ	[検出済み (Discovered)]、[新規インストール (New install)]、[移行 (Migration)]などのクラスタ タイプが表示されます。

設定	説明
検出ステータス	<p>クラスタの検出ステータスが表示されます。このフィールドには、次の検出ステータスのいずれかが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 接続中 (Contacting) • 検出中 (Discovering) • 成功 (Successful) • ノードは到達不可能です (Node Unreachable) • タイムアウト (Timeout) • 内部エラー (Internal Error)
アクション	<p>次のオプションが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [編集 (Edit)] : 新しく追加されてまだインストールされていないノードを編集します。 • [削除 (Delete)] : 新しく追加されてまだインストールされていないノードを削除します。
表示	<p>ドロップダウンリストから次のオプションのいずれかを選択することにより、クラスタタスクをステータス別にフィルタすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [すべて (All)] : 使用可能なすべてのクラスタを表示する • [検出済み (Discovered)] : スケジュール済みのクラスタを表示する • [新規インストール (New Install)] : 新しくインストールされたクラスタを表示する • [移行 (Migration)] : 移行されたクラスタを表示する場合
フィルタ	<p>検索ウィンドウの最下部で検索ルールを設定するには、ステータスを選択し、[フィルタ (Filter)] をクリックします。</p>
[クラスタ検出 (Discover Cluster)] ボタン	<p>このボタンをクリックすると、Cisco Prime Collaboration Deployment が、すでに Unified Communications アプリケーションを実行しているサーバと通信して、そのクラスタ情報を Cisco Prime Collaboration Deployment インベントリに追加します。</p>
<p>[移行宛先クラスタの定義 (Define Migration Destination Cluster)]</p> <p>移行クラスタの作成方法については、移行クラスタの作成を参照してください。</p>	

設定	説明
[クラスタの指定 (Specify Clusters)] ページ	<p>移行タスク用の宛先クラスタを設定するには、次のフィールドの詳細を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ソース クラスタ (Source Cluster)] : ドロップダウン リストから、ソース UC クラスタを選択します。 • [ノードの表示 (View Nodes)] : 使用可能なクラスタ ノードを表示する場合に、このリンクをクリックします。 • [アクティブなバージョン (Active version)] : ソース UC クラスタのアクティブなバージョンが表示されます。 • [宛先クラスタのニックネーム (Destination Cluster Nickname)] : 宛先クラスタのニックネームを入力します。 • [宛先ネットワークの設定 (Destination Network Settings)] : 次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [すべての宛先ノードに送信元ノードのネットワーク設定を使用 (Use the source node network settings for all destination nodes)] : デフォルトのネットワーク オプションを維持する場合に、このオプションを選択します。 • [1 つ以上の宛先ノードの新しいネットワーク設定を入力 (Enter new network settings for one or more destination nodes)] : デフォルトのネットワーク設定を変更したり、新しいネットワーク オプションを入力したりする場合に、このオプションを選択します。 <p>(注) [すべての宛先ノードに対して送信元ノードのネットワーク設定を使用 (Use the source node network settings for all destination nodes)] オプションを選択した場合は、[宛先クラスタ ノードの割り当て (Assign Destination Cluster Nodes)] ウィンドウの送信元ノードの [NAT IP] 列と [宛先 NAT IP (Dest NAT IP)] 列の両方に同じ IP アドレスが表示されます。[1 つまたは複数の宛先ノードに対する新規ネットワーク設定を入力 (Enter new network settings for one or more destination nodes)] オプションを選択すると、[宛先クラスタ ノードの割り当て (Assign Destination Cluster Nodes)] ウィンドウには送信元ホスト名だけが表示され、宛先ホスト名は表示されません。</p>

設定	説明
[宛先クラスタ ノードの割り当て (Assign Destination Cluster Nodes)] ページ	<ul style="list-style-type: none"> • [ソース クラスタ (Source Cluster)] : ソース クラスタの名前が表示されます。 • [宛先クラスタ (Destination Cluster)] : 宛先クラスタの名前が表示されます。 • [宛先クラスタ ノードの割り当て (Assign Destination Cluster Nodes)] : 宛先仮想マシンとソースクラスタ内のノードを関連付ける場合に、このボタンをクリックします。 <p>(注) DHCPが送信元ノードで使用されている場合は、宛先ノードもDHCPを使用するように設定され、このウィザードにはネットワーク設定を変更するオプションが表示されません。</p>
[NTP/SMTP 設定の構成 (Configure NTP/SMTP Settings)]	<p>移行タスクの実行中に NTP と SMTP を移行ノードに設定する場合に、次のセクションの詳細を入力します。</p> <p>[Network Time Protocol (NTP) の設定 (Network Time Protocol (NTP) Configuration)] ウィンドウ : 次のフィールドの 1 つ以上の IP アドレスを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NTP サーバ 1 (NTP Server 1) • NTP サーバ 2 • NTP サーバ 3 • NTP サーバ 4 • NTP サーバ 5 <p>(オプション) [Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) の設定 (Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) Configuration)] ウィンドウ</p> <ul style="list-style-type: none"> • [SMTP サーバ (SMTP Server)] : SMTP サーバの IP アドレスを入力します。
[DNS 設定の定義 (Define DNS Settings)]	<p>(オプション) 機能とともに追加された使用可能なホストから、移行クラスタ ノードの DNS 設定を構成するノードをオンにし、[DNS 設定の割り当て (Assign DNS Settings)] をクリックします。</p>
<p>[クラスタ検出 (Discover Cluster)] ウィンドウ</p> <p>クラスタの検出方法については、クラスタの検出を参照してください。</p>	

設定	説明
[クラスタ アクセス (Cluster Access)] ページ	<p>次のフィールドに詳細情報を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none">• [このクラスタのニックネームの選択 (Choose a Nickname for this Cluster)] : クラスタのニックネームを入力します。• [クラスタ パブリッシャのホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address of Cluster Publisher)] : クラスタのパブリッシャ ノードのホスト名または IP アドレスを入力します。• [OS 管理者ユーザ名 (OS Admin Username)] : OS 管理者ユーザ名を入力します。• [OS 管理者パスワード (OS Admin Password)] : OS 管理者パスワードを入力します。 (注) クラスタ パスワードが 16 文字未満であることを確認します。• [NAT の有効化 (Enable NAT)] : クラスタの NAT を有効にする場合に、このチェックボックスをオンにします。 (注) [NAT の有効化 (Enable NAT)] をオンにすると、[クラスタ検出進捗 (Cluster Discovery Progress)] ページに [NAT IP] 列が表示されます。

設定	説明
[クラスタ検出進捗 (Cluster Discovery Progress)] ページ	<p>このページでは、次のフィールドにクラスタ検出のステータスが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [クラスタ名 (Cluster Name)] : クラスタ検出のステータスメッセージとともにクラスタ名が表示されます。 • [ホスト名 (Hostname)] : ホスト名が表示されます。 • [接続ステータス (Contact Status)] : クラスタ検出の次のステータスのいずれかが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • 接続中 (Contacting) • 検出中 (Discovering) • 成功 (Successful) • ノードは到達不可能です (Node Unreachable) • タイムアウト (Timeout) • 内部エラー (Internal Error) • [製品 (Product)] : クラスタの製品が表示されます。 • [アクティブなバージョン (Active version)] : 現在使用中のバージョンが表示されます。 • [アクティブでないバージョン (Inactive version)] : 現在使用されていないバージョンが表示されます。 • [NAT IP] : この列は、[クラスタアクセス (Cluster Access)] ページの [NAT の有効化 (Enable NAT)] チェックボックスをオンにした場合にのみ表示されます。 • [ハードウェア (Hardware)] : クラスタに関連付けられたハードウェアが表示されます。

設定	説明
[クラスタ ロール割り当て (Cluster Role Assignment)] ページ	<p>このページでは、次のフィールドにクラスタのロール割り当てが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ホスト名 (Hostname)] : ホスト名が表示されます。 • [製品 (Product)] : クラスタの製品が表示されます。 • [関数 (Functions)] : 特定のノードに割り当てられるさまざまな役割が表示されます。たとえば、パブリッシャ、プライマリ TFTP、セカンダリ TFTP などです。 • [SFTP サーバ (SFTP Server)] : ISO ファイルの場所が表示されます。 デフォルトでは、SFTP サーバは PCD です。 • [設定を編集する (Edit Settings)] : ノードに複数の役割や機能を割り当てることができます。
<p>[新規 UC クラスタの定義 (Define New UC Cluster)] ウィンドウ</p> <p>新しいクラスタのインストール方法については、フレッシュインストールのために新規クラスタを追加を参照してください。</p> <p>このボタンをクリックすると、新しい UC クラスタのインストールプロセスを誘導するウィザードが表示されます。</p>	
[クラスタ名の指定 (Specify Cluster Name)] ウィンドウ	[このクラスタのニックネームの選択 (Choose the Nickname for this cluster)] : クラスタ名を入力します。

設定	説明
[仮想マシンの追加 (Add Virtual Machines)] ウィンドウ	<p>次のフィールドに詳細情報を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ノードの追加 (Add Node)] : 使用可能なチェックボックスからノードを追加するための1つ以上の機能をオンにします。 • [メモ (Notes)] : (オプション) 選択したクラスタに関するメモを追加します。 • [仮想マシン (Virtual Machines)] : 使用可能な仮想マシンからノードを追加します。 <p>(注) 使用可能な VM は名前とホストでソートされます。VM 名、ESXi ホスト、電源状態などの仮想マシンの詳細がこのウィンドウに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [表示 (Show)] : ドロップダウンリストからオプションを選択することにより、仮想マシンをステータス別にフィルタすることができます。 • [ネットワーク (Network)] : 次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [静的 IP アドレス (Static IP address)] : ホスト名、IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、および NAT IP フィールドの詳細を入力します。 • [予約がある DHCP を使用 (Use DHCP with Reservations)] : ホスト名に加えて、(その VM の MAC アドレスに関連付けられている) DHCP サーバ上で予約のある IP アドレスを入力します。 • [製品と機能 (Products and Functions)] : ドロップダウンリストから、製品を選択します。[機能 (Functions)] セクションで、ご使用の VM に該当する機能のチェックボックスをオンにします。 <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> • アプリケーションタイプごとに、定義されているクラスタ内の少なくとも1つのノードで [パブリッシャ (Publisher)] チェックボックスをオンにします。 • (オプション) [パブリッシャ (Publisher)] フィールドの下の [注記 (Notes)] フィールドに、割り当てた機能に関する注を追加します。 <ul style="list-style-type: none"> • [仮想マシン (Virtual Machines)] セクション : 選択したノードの VM を選択します。

設定	説明
[クラスタ全体設定の構成 (Configure Cluster Wide Settings)] ウィンドウ	

設定	説明
	<p>次のセクションのフィールドの詳細を入力します。</p> <p>[OS 管理者クレデンシャル (OS Administration Credentials)]</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ユーザ名 (Username)] : OS 管理者のユーザ名を入力します。 • [パスワード (Password)] : ユーザ名のパスワードを入力します。 • [パスワードの確認 (Confirm Password)] : [パスワード (Password)] フィールドに入力したものと同一パスワードを再入力します。 <p>[アプリケーションのクレデンシャル (Application Credentials)]</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ユーザ名 (Username)] : アプリケーション ユーザのユーザ名を入力します。 • [パスワード (Password)] : ユーザ名のパスワードを入力します。 • [パスワードの確認 (Confirm Password)] : [パスワード (Password)] フィールドに入力したものと同一パスワードを再入力します。 <p>セキュリティ パスワード</p> <ul style="list-style-type: none"> • [パスワード (Password)] : クラスタのセキュリティ パスワードを入力します。 • [パスワードの確認 (Confirm Password)] : [パスワード (Password)] フィールドに入力したものと同一パスワードを再入力します。 <p>[SMTP 設定 (SMTP Settings)] (オプション)</p> <ul style="list-style-type: none"> • [SMTP サーバ (SMTP Server)] : SMTP サーバの IP アドレスを入力します。 <p>証明書情報</p> <ul style="list-style-type: none"> • [組織 (Organization)] : 証明書が使用される組織の名前を入力します。 • [単位 (Unit)] : 使用される証明書の数を入力します。 • [場所 (Location)] : 証明書が使用される場所を入力します。 • [状態 (State)] : 証明書が使用される状態を入力します。 • [国 (Country)] : ドロップダウンリストから、証明書が使用される国を選択します。

設定	説明
[DNS 設定の構成 (Configure DNS Settings)] ウィンドウ	(オプション) 機能とともに追加された使用可能なホストから、ノードの DNS 設定を構成するノードをオンにし、[DNS 設定の割り当て (Assign DNS Settings)] をクリックします。
[NTP 設定の構成 (Configure NTP Settings)]	<p>ネットワークタイムプロトコルを設定するには、次のフィールドに 1 つ以上の NTP サーバの詳細を入力します。DNS を使用しない場合は、NTP サーバは IP アドレスである必要があります。DNS を使用する場合は、NTP サーバは FQDN にできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NTP サーバ 1 (NTP Server 1) • NTP サーバ 2 • NTP サーバ 3 • NTP サーバ 4 • NTP サーバ 5 <p>(注) 少なくとも 2 つの NTP サーバの IP アドレスを定義することをお勧めします。</p>
[NIC 設定の構成 (Configure NIC Settings)]	<p>(オプション) 次のフィールドの詳細を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ホスト名 (Hostname)]、[機能 (Functions)]、および [MTU サイズ (MTU size)] 列：使用可能なサーバから、サーバのチェックボックスをオンにします。 • [MTU サイズ (MTU Size)]：552 ~ 1500 の MTU サイズを入力して、[選択項目に適用 (Apply to Selected)] をクリックします。 • [選択項目に適用 (Apply to Selected)]：選択したホストの MTU サイズを適用する場合に、このボタンをクリックします。 • [デフォルト MTU の適用 (Apply Default MTU)]：選択したホストの MTU サイズのデフォルト値を適用する場合に、このボタンをクリックします。

設定	説明
[タイムゾーンの設定 (Configure Time Zones)] ウィンドウ	<p>各クラスターノードのタイムゾーンを指定するには、次のフィールドの詳細を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [地域 (Region)] : ドロップダウンリストから、クラスターノードの地域を選択します。 • [タイムゾーン (Time Zone)] : ドロップダウンリストから、選択した地域のタイムゾーンを選択します。 • [選択項目に適用 (Apply to Selected)] : 各クラスターノードのタイムゾーンの変更を適用する場合に、このボタンをクリックします。

ESXi ホストビュー

設定	説明
[ESXi ホスト (ESXi Hosts)] テーブル	
ホスト名前	ESXi ホスト名が表示されます。
IPアドレス	ESXi ホストの IP アドレスが表示されます。
説明	ESXi ホストの説明 (もしあれば) が表示されます。
アクション	<p>次のオプションが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [編集 (Edit)] : ESXi ホストの詳細を編集する場合に、このリンクをクリックします。 • [削除 (Delete)] : データベースから ESXi ホストを削除する場合に、このリンクをクリックします。
ESXi ホストの追加	ESXi ホストをデータベースに追加する場合は、このボタンをクリックします。
[ESXi ホストの追加 (Add ESXi Host)] ウィンドウ	
ホスト名/IP アドレス	ESXi ホストのホスト名または IP アドレスを入力します。
ユーザ名	ユーザ名を入力します。
パスワード	ユーザのパスワードを入力します。
説明	(オプション) ESXi ホストの説明を入力します。

SFTP サーバとデータストア

設定	説明
[SFTP サーバ/データストア (SFTP Servers/Datastore)] セクション	
<p>Cisco Prime Collaboration Deployment サーバは、アップグレード、フレッシュ、インストール、および移行タスクによって使用される ISO ファイルと COP ファイルを保存するローカル SSH File Transfer Protocol サーバまたは Secure File Transfer Protocol (SFTP) サーバとして機能します。</p> <p>SFTP データストアの詳細については、SFTP サーバとデータストア (45 ページ) を参照してください。</p>	
削除 (Delete)	データストアから選択した SFTP サーバを削除する場合に、このボタンをクリックします。
サーバの追加 (Add Server)	選択した SFTP サーバをデータストアに追加する場合に、このボタンをクリックします。
サーバ IP (Server IP)	データストア内の使用可能な SFTP サーバの IP アドレスが表示されます。
サーバの説明 (Server Description)	使用可能な SFTP サーバに関して追加された説明が表示されます。
データベース ディレクトリ (Database Directory)	SFTP サーバのディレクトリパスが表示されます。
ステータス (Status)	SFTP サーバのステータスが表示されます。たとえば、[接続済み (Connected)] や [ローカル (Local)] などです。
アクション (Actions)	次のオプションが含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> • [編集 (Edit)] : SFTP サーバの詳細を編集する場合に、このリンクをクリックします。 • [削除 (Delete)] : データストアから選択した SFTP サーバを削除する場合に、このリンクをクリックします。
[SFTP/データストア ファイル (SFTP/Datastore Files)] セクション	
削除 (Delete)	データストアから選択した SFTP サーバの ISO ファイルと COP ファイルを削除する場合に、このボタンをクリックします。
ファイル名 (Filename)	SFTP サーバの使用可能な ISO ファイルと COP ファイルが表示されます。
サーバ IP (Server IP)	SFTP サーバの IP アドレスが表示されます。

設定	説明
サーバの説明 (Server Description)	使用可能な SFTP サーバに関して追加された説明が表示されます。
ディレクトリ (Directory)	SFTP サーバの SFTP ファイルが保存されているディレクトリ名が表示されます。
ファイルタイプ (File Type)	アップグレードファイルやフレッシュインストールなどのファイルのタイプが表示されます。
コピー時刻 (ローカル) (Copied On (local))	SFTP ファイルがデータストアにコピーされたときのデータ、時刻、およびタイムゾーンが表示されます。

管理ビュー要素

電子メール通知の表示

設定	説明
[通知設定 (Notification Settings)] セクション	詳細については、 E メール通知 を参照してください。

設定	説明
通知	<p>次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [電子メール通知を送信しない (Do not send email notification)] : タスクのエラーまたはタイプに関する電子メール通知を受信しない場合に、このオプションを選択します。 <p>(注) このオプションを選択すると、このセクションのすべてのフィールドが編集不能になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [エラーのみ - エラーが発生した場合にのみ電子メールを送信する (Errors only - Send email only when there is an error)] : 次の状態のタスク イベントエラーに関する電子メール通知を受信する場合に、このオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • スケジュールできませんでした (Failed to Schedule) • 失敗しました (Failed) • キャンセルできませんでした (Failed to Cancel) • エラーのため一時停止 (Paused on Error) • [標準 - タスクの開始、一時停止、終了、またはエラーの発生時に電子メール通知を送信する (Standard - Send email when tasks start, pause, finish, or when there is an error)] : タスクが次の状態のいずれかに入ったときに電子メール通知を受信する場合に、このオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • スケジュール済み (Scheduled) • Failed to Schedule (スケジュールできませんでした) • Started (開始) • Successful (成功) • Failed (不合格) • Cancelled (キャンセル) • Canceling (キャンセル中) • Failed to Cancel (キャンセルできませんでした) • Paused on Error (エラーのため一時停止) • Paused (一時停止) • Paused – Required (一時停止 - 必須)

設定	説明
電子メール受信者	1 人以上の受信者の電子メール アドレスを入力します。 (注) 複数の電子メール アドレスはカンマで区切ります。
TLS を使用	Transport Layer Security (TLS) プロトコルでプライバシーを保証する場合やアプリケーションと電子メール受信者間の電子メールの改ざんを防止する場合に、このチェックボックスをオンにします。
[メール サーバ クレデンシヤル (Mail server credentials)] セクション	
ユーザ名	メール サーバのユーザ名を入力します。
パスワード	メール サーバにログインするためのパスワードを入力します。
[サーバ設定 (Server Settings)] セクション	
SMTP サーバ	SMTP サーバの IP アドレスを入力します。
ポート	SMTP サーバのポートの数を入力します。
保存	このページで加えた変更を保存する場合に、このボタンをクリックします。
リセット	このページのデフォルト値を設定する場合に、このボタンをクリックします。
テスト メール の送信	エラーのみオプションおよび標準オプションに関するテスト電子メールを 1 人以上の受信者に送信する場合に、このボタンをクリックします。

NAT 設定

設定	説明
[PCD NAT 設定 (PCD NAT Settings)]	
ネットワークアドレス変換の詳細については、 ネットワークアドレス変換のサポート を参照してください。	
ホストネーム	サーバのホスト名が表示されます。
プライベート IP	プライベートネットワーク上に存在するサーバの IP アドレスが表示されます。
NAT IP	NAT IP アドレスを入力します。

設定	説明
保存	NAT IP アドレスは、Cisco Prime Collaboration Deployment のコンフィギュレーションファイルのエントリとして保存されます。このエントリは、アプリケーションノードが Cisco Prime Collaboration Deployment に接続しようとするときに使用されます。
リセット	(オプション) NAT IP アドレスが過去に保存された NAT IP アドレスにリセットされます。

ディスク領域警告レベル

設定	説明
ディスク領域警告レベルの設定 (Disk Space Warning Level Configuration) 詳細は、 ディスク領域警告レベル を参照してください。	
合計ディスク領域 (GB) (Total Disk Space (GB))	サーバ上の合計ディスク領域が表示されます。
使用可能なディスク領域 (GB)	サーバ上で使用可能なディスク領域が表示されます。
警告レベル ディスク容量 (GB)	ディスク領域の警告値を入力します。この値を入力したら、情報リンクをクリックして、入力した領域値がサーバで使用できるかどうかを確認します。
保存	警告ディスク領域値を保存します。
リセット	(オプション) デフォルト値でページをリセットします。

監査ログ設定

設定	説明
[監査レベルの設定 (Audit Level Settings)] セクション	

設定	説明
[アプリケーション監査イベント レベル (Application Audit Event Level)]	<p>ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [情報 (Info)]: 監査イベント レベルを情報メッセージとして表示する場合。 • [警告 (Warning)]: 監査イベント レベルを警告メッセージとして表示する場合。 • [デバッグ (Debug)]: 監査イベント レベルをデバッグメッセージとして表示する場合。 • [エラー (Error)]: 監査イベント レベルをエラーメッセージとして表示する場合。
[リモート SysLog の設定 (Remote SysLog Settings)] セクション	
[リモート Syslog サーバ名/IP (Remote Syslog Server Name / IP)]	リモート syslog サーバの名前またはそのリモートサーバに記録する監査ログの IP アドレスを入力します。
ローカル監査ログの設定 (Local Audit Log Settings)	
ローカル監査ログを有効にする (Enable Local Audit Log)	<p>ローカル監査ログを有効または無効にするには、このチェックボックスをオンまたはオフにします。</p> <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> • このフィールドをオンにすると、監査イベントがローカルサーバに記録されます。このフィールドをオフにすると、監査イベントがローカルサーバに記録されません。監査イベントには、ユーザ ID、ClientAddress、重大度、EventType、ResourceAccessed、EventuStatus、AuditCategory、CompulsoryEvent、ComponentID、CorrelationID、およびノード ID が含まれます。 • このフィールドをオンにすると、[ログローテーションを有効にする (Enable Log Rotation)] フィールドがアクティブになります。

設定	説明
ログローテーションを有効にする (Enable Log Rotation)	<p>ログローテーションを有効または無効にするには、このチェックボックスをオンまたはオフにします。</p> <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ローカル監査ログを有効にする (Enable Local Audit Log)] フィールドが有効になっている場合に、このフィールドを設定できます。 • このフィールドを有効にすると、[最大ファイル数 (Maximum No of Files)]、[最大ファイルサイズ (MB) (Maximum File Size(MB))]、および[ログローテーション上書きに到達する際の警告しきい値 (%) (Warning Threshold for Approaching Log Rotation Overwrite(%))] フィールドを設定できます。[ローカル監査ログを有効にする (Enable Local Audit Log)] フィールドをオフにすると、これらのフィールドのデフォルト値がアクティブでないため適用されません。
最大ファイル数 (Maximum No of Files)	<p>[最大ファイル数 (Maximum No of Files)] フィールドに、サーバ上で作成可能な最大ファイル数を設定するための整数値を入力します。</p> <p>[ログローテーションを有効にする (Enable Log Rotation)] フィールドをオンにすると、[最大ファイル数 (Maximum No of Files)] フィールドの値を設定できます。ファイル数が設定値に到達すると、ログローテーションプロセスが開始します。ログローテーションプロセスでは、すべてのログファイルが削除され、ログファイル番号 1 から書き換えられます。</p> <p>(注) このフィールドの値は 1 ~ 5000 の範囲内にする必要があります。</p>

設定	説明
最大ファイルサイズ (MB) (Maximum File Size (MB))	[最大ファイルサイズ (MB) (Maximum File Size (MB))] フィールドに、サーバ上で作成されるログの最大ファイルサイズを設定するための値を入力します。 (注) このフィールドの値は 1 ~ 10 の範囲内にする必要があります。
ログローテーション上書きに到達する際の警告しきい値 (%) (Warning Threshold for Approaching Log Rotation Overwrite(%))	[ログローテーション上書きに到達する際の警告しきい値 (%) (Warning Threshold for Approaching Log Rotation Overwrite(%))] フィールドに、警告しきい値を入力します。 設定された警告しきい値に到達すると、監査ログファイルのバックアップを要求する電子メール通知がユーザに送信されます。ログローテーション中にこれらのファイルが削除または上書きされます。 (注) このフィールドの値は 1 ~ 100 の範囲内にする必要があります。 詳細については、『Cisco Prime Collaboration Deployment Administration Guide』の「Email notification」のトピックを参照してください。
保存	このページで加えた変更を保存する場合に、このボタンをクリックします。
リセット	このページのデフォルト値を設定する場合に、このボタンをクリックします。

カスタマイズされたログオンメッセージの設定

設定	説明
[カスタマイズされたログオンファイルのアップロード (Upload Customized Logon File)]	
ファイルのアップロード (Upload File)	[参照 (Browse)] ボタンをクリックして、カスタマイズされたサインオンメッセージを含むファイルの場所を参照します。

設定	説明
ユーザ確認応答が必要 (Require User Acknowledgment)	ユーザが受信したファイルに対するユーザ確認応答を有効または無効にする場合に、このチェックボックスをオンまたはオフにします。 このフィールドが有効になっている場合は、ユーザが Cisco Prime Collaboration Deployment のサインインページでアラートメッセージとして確認応答を取得します。このメッセージは、ユーザが同じ Web ブラウザのインスタンスから初めてサインアウトしたときに表示されます。
ファイルのアップロード (Upload File)	カスタマイズされたサインオンメッセージを含むファイルをサーバにアップロードする場合に、このボタンをクリックします。ファイルをアップロードすると、ポップアップが開いて、ファイルアップロードステータスが表示されます。
削除 (Delete)	カスタマイズされたサインオンメッセージを含むファイルを削除する場合に、このボタンをクリックします。ファイルを削除すると、ポップアップが開いて、ファイル削除ステータスが表示されます。

サポートされているリリースのマトリックス

Cisco Prime Collaboration Deployment のこのリリースには、[管理 (Administration)] メニューに [サポートされているリリースのマトリックス (Supported Releases Matrix)] ウィンドウが含まれます。このマトリックスを使用して、選択する製品、タスクタイプ、および Cisco Prime Collaboration Deployment リリースがサポート対象のリリースか非サポートのリリースかを確認します。

設定	説明
PCD リリース (PCD Releases)	ドロップダウンリストから、Cisco Prime Collaboration Deployment のいずれかのリリースを選択します。利用可能なオプションは、リリース 10.0(1) から最新リリースまでです。

設定	説明
タスク タイプ (Task Type)	<p>ドロップダウン リストから、特定のタスクのサポートされているリリースを表示するには、次のいずれかのタスクを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべて (All) • 移行 • インストール (Install) • アップグレード • バージョン切り替え • サーバの再起動 (Server Restart) • 再アドレス付け (Readdress)
製品のタイプ (Product Type)]	<p>ドロップダウンリストから、次のいずれかの製品を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CUCM : Cisco Unified Communications Manager を暗示します。 • IM&P : インスタント メッセージおよびプレゼンス サービスを暗示します。 • CUC : Cisco Unity Connection を暗示します。 • UCCX : Cisco Unified Contact Center Express を暗示します。 • CER : Cisco Emergency Responder の略

[サポートされているリリースのマトリックス (Supported Release Matrix)] テーブルに基づいて、[CUCM タスク タイプ (CUCM Task Type)] 列に [サポートされているリリースのテーブル (Supported Releases Table)] の値が表示されます。このテーブルには、選択した製品やタスク タイプの、サポートされているリリースと非サポートのリリースが示されています。